

令和2年度 京都府立洛東高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (中間評価段階)

令和2年11月25日

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>激変激動の時代を迎えるにあたり、生徒一人一人が志を立て個々の将来を見据えて希望進路の実現に向かうとともに、地域創生に寄与する人材育成を推進する。</p> <p>○基礎学力とともに、「創造力」「発想力」「人間性」「礼節」等の人間力向上を図る。</p> <p>○誰もが未経験の時代において「健全な危機感」を持つことの重要性について理解を促し、共生社会の中で生き抜く力を育成する。</p> <p>○学校行事、部活動、ボランティア活動等とおして、生徒個々の資質能力を向上させるとともに学校の活性化を図る。</p>		<p>・令和2年度2年生の「総合的な探究の時間」はそれぞれの教科の特性を活かした探究活動を検討し、指導計画を作成することができた。令和2年度、それに基づいた活動を活性化していく。</p> <p>・より授業を活性化させるため観点別評価の導入によって生徒に、日々の授業や一つ一つの取組に集中して取り組ませ、達成感を味わわせることに努める。観点別評価の実施については、教科主任会議で検討、一致した指導体制が確立できるようになる。</p> <p>・基礎学力の向上のため、1年の最初の段階(オリエンテーション等)で勉強の仕方、進路についての考え方、授業の受け方(ノートの取り方)等を徹底していき、必要がある。</p> <p>・模擬試験の積極的な受験を促すとともに、返却データの活用を強化していく。また、入試改革に伴って、授業の内容を含め学習指導方法を改善していきよう研修会を早期に持つ。</p> <p>・3年生の就職については、学校紹介を希望する生徒は具体的な方策を実践することで、本人の希望した職種への就職内定率100%を達成できた。進学については、センター試験の受験者が10名と昨年より増加し、少人数ではあるが生徒が最後まで粘る姿勢を見せてくれたことは評価できる。進学補習や就職指導に対する姿勢に関して、「早期から」というキーワードを掲げ進路希望を明確にし、適切な時期に繰り返し情報を伝えることが必要である。</p> <p>・生徒自身の意識の向上により、地域からの苦情は減少した。今後、教員全員が一致してできる生徒指導を目指して、指導内容のポイントを明確に視覚化することを考えていく。また、遅刻とアルバイトの対処方法については議論を重ねていかなければならない。</p> <p>・昇降口のモニターやSNSを活用し、より充実した校内広報を行うことで、生徒による校外への広報にもつなげていく。</p> <p>・生徒のゴミ分別意識を高めることにより削減に効果があったが、さらに削減に努める。</p> <p>・今年度は11月に一斉読書活動を実施し、全校体制で読書啓発に努めることができた。令和2年度も継続・発展させ、落ち着いた学習活動の重視にもつなげていきたい。</p>		<p>進路指導 『入学当初から・定期的継続的に・視野を広げる情報提供・内定後指導』</p> <p>学習指導 『授業を大切に・公開授業充実・個に応じて・観点別評価・進路希望に照らして』</p> <p>特別支援 『情報共有・家庭、関係機関との連携・個に応じて・日常観察』</p> <p>ICT活用 『校内研修の充実・教材開発、共有・他校連携・チャレンジ』</p> <p>生徒指導 『あたり前のことをちゃんとさせる・褒める・温度差のない指導』</p> <p>環境整備 『事に臨む前、事に臨んだ後に場を整える・感謝の気持ち、奉仕精神を育む』</p> <p>広報活動 『全校体制で・HPの充実・SNSの活用・在校生、卒業生の活躍を紹介』</p> <p>労働環境 『超過勤務削減・整理整頓・相互理解と協力・意識向上』</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策	評価 中間最終総合	成果と課題	
教育課程 学習指導 (教務部)	基礎学力の向上のための研究と実践を行い、多様な進路実現に繋がる指導を実践する。	教科主任会議等を通して、新学習指導要領に対応した授業の在り方や評価について研究し、移行に向けた体制づくりを進める。	D	(成果) 年度当初に「授業の在り方・評価」に関するガイダンスを各教科で一斉に実施し、生徒は緊張感と目標を持って新年度が迎えられた。また、追認審査体制や学期末の成績不振者指導の改善により、学習に課題を持つ生徒にとっては、学習に向かう基本的な姿勢を養うことができた。 (課題) 平常年度であれば日常業務に専念でき、1、2項目に重点を置いた業務推進を計画したが、目の前の課題解決に時間、労力、意識を奪われ、取り組むことができなかった。今後は、新カリへの移行準備、生徒の学力を鍛える授業改善を念頭に、各学年の実態に応じた「学力向上」「軸足のある学校生活」になるよう、具体的方策を実行に移す。	
		教科の枠を超えた授業改善の機会を創設し、授業力向上の一助とする。	C		
		年度当初に生徒に対する教科オリエンテーションを実施し、「学びに向かう意欲」を喚起する協働体制をつくる。	B		
特色推進 広報活動 (総務企画 担当)	広報として、特色ある取り組みを中心に中学生・保護者・地域に向けて発信する。学校内外への充実した広報活動の取り組みを実施する。	中学生・保護者・地域に本校の教育活動が理解されるよう関係分掌と連携を図り、ホームページやパンフレット、学校PR活動等を通して積極的な学校内外への広報活動を行う。	A	(成果) SNS等新しい媒体での広報活動を開始した。対外的にはもちろん、在校生への広報の幅が広がった。 ・感染防止対策を考えた上での学校公開の実施、広報活動を実施することができた。 (課題) 広報の媒体が増え、従来のホームページやSNSの更新頻度が遅くなり今後改善の必要がある。 ・地域やPTAとの積極的な連携につとめる。	
		中学校や教育連携校、地域やPTAと連携をとり、本校の特色ある授業や学校公開や中学校訪問等の取り組みがより充実したものになるよう事業の円滑な実施を図る。	B		
生徒指導 (生徒指導部)	学校生活(学校行事、部活動、ボランティア活動等)を通して、進路実現に向けた身だしなみ指導を中心にあたり前のことをあたり前にする指導を全教職員で連携を取りながら行う。褒める機会の充実を図り、生徒の自己肯定感を高めるとともに自らの課題を主体的に解決する意欲と実践力、社会性を育成する。	服装や髪型、化粧、飾り物など身だしなみについて、学校生活にふさわしい身だしなみになるよう粘り強く指導を行う。また、全教職員で統一した指導ができるよう、指導留意点などについて連携を図る。	C	身だしなみ等に関して、あたり前のことをあたり前にさせるため、規則だからと一括りにせず、生徒が心から身だしなみを整えることが大切と思えるよう、対話を中心に指導を行っているが、教員間で温度差のある指導が垣間見え、そこを生徒に見られている。教職員が一枚岩になつての指導が迫られているように思う。また、統一した指導をするため、分かりやすい指導方法を他教員に提案していくことが課題だと考える。 学校祭等においても学年の意向を聞きながら進めてはいたが、うまく連携が取れなかったことが今後の反省点である。分掌として、HR担当がHR運営を行いやすいように、連携を図り後方支援をしていきたい。 盗難等に関しては、数件報告はあるが、昨年度より減少している。褒める機会を増やすことに関しては、生徒指導部前の掲示物が好評で生徒にも認知されている。 全体としてまだまだなところが多いが、指導する中で以前と比べ生徒自身が自らの口で自分の意志を伝えようとしていることが伺え、生徒に訴えていることで、生徒自身も話を聞いてもらえると思って話してきているように思うことが成果である。この小さな声を拾いながら今後も進めていきたい。 いじめの未然防止に関しては、学年の協力もあり、迅速な対応も行っている。いじめに繋がる恐れのある事案に関して、今年度も早期にいじめ対策会議をひらいた。その後、当該生徒にも個別に声掛けも4行っている。	
		生徒指導部だよりを定期的に発行し、生活上の注意事項(交通ルールや交通マナーも含む)や盗難防止等の啓発指導を適宜行い、自己管理能力を高め社会性を育成する。また、褒める機会を増やし、生徒も視覚的に体感できるように努力する。	A		
		いじめの未然防止、早期発見に努め、いじめが発生した際には迅速かつ適正に対処する。	B		
進路指導 (進路指導部)	3年生進学希望者の、希望実現率100%を目指す。	学年部・教科と連携し、学力実態・進路希望などの情報共有を図り、時期に応じて検討会を実施するなど個々の進路に対応した入試対策指導を行う。	B	当初は、生徒の休講や分散勤務で、業務がうまく進まなく、学習支援サービスに期待が集まったが活用が不十分であった。一方、休業中に3密を十分に配慮しガイダンスを実施できたことは、高く評価できる。進学関係は、3学年学年部と交流を密にとることで、情報交換ができていく。また、各種講座や説明会を実施した結果、スムーズに生徒への指導ができていく。各種模擬試験への積極的な参加を学年部と協力し案内した結果、受験者数が例年通り推移している。ただ、模擬試験結果の返却後の扱いが課題である。さらには、学びの基礎診断の事前教材も、活用の検討が必要である。進路部通信を8回発行し、生徒への進路情報を発信した。就職関係は毎週指導講座を開講し、生徒のスキルアップにつなげた。模擬面接を実施し、回数を重ねるにつれて成長を感じることができ、生徒も自信を持って選考試験に臨むことができていく。今後、進路決定者への事後指導を充実させ、学校としての取り組みとしていきたい。具体的には、難関大学合格者への新たな取り組みを実施していく。2年生に対しては、学年部と協力し進路希望調査、進路別説明会を実施した。また、新しい取り組みとして学年部の力を借りながら四年制大学進学希望者をはじめとする生徒たちに英語・国語の自学自習の取り組みを行った。1年生に対しては、進路希望調査、進路講演会を実施した。高学年共に、模擬試験の受験状況は良好である。しかし、ここでも受験後の扱いが課題である。2年生の就職希望者には、来月から指導を開始する。学習支援サービスは、研修を積んで活用できるようにしたい。	
		多様な入試に対応できるように、適切な進学補習講座・面接対策講座を設定し、定例で実施する。また、小論文対策として説明会及び小論文模試を設定し、個別指導へとつなげる。	B		
		各種模擬試験を受けるよう指導し、それらに対して目標設定・受験・受験直後の復習・答案返却後の復習のPDCAサイクルを確立させる。	C		
		大学入試改革に向けて情報収集し、入試の傾向や対策について進路部通信や研修会を通じて、教職員・生徒への発信と情報の共有に努める。	B		
		就職指導は、2年生の秋から実施し高校生の就職制度を理解させ、生徒の希望や適性に応じた指導を学年部と連携して実施する。また、就職に向けて基礎学力と社会の一般常識を身につけさせる学習に取り組ませる。	B		
進路希望実現率が100%になるように、1、2年生に対し早期から具体的な見通しを持たせる。	社会人としてのマナーの習得や基本技能の習得や対人能力のスキルを身につけるよう指導する。さらに実社会で対応できるようにロールプレイングを用いた練習によって実践力をつけさせる。	B	ICT教材や学習支援サービスを充実させる。		
	面接指導を徹底する。身だしなみや入退室などの礼儀作法、正しい言葉遣いで受け答えができるように粘り強く指導する。また、社会人の面接官を招聘した実践的な模擬面接を設定する。さらに、内定後指導を充実させる。	B			
	生徒の進路希望を早期に把握し、長期的な学習・受験計画の作成を促す。他分掌と連携し、毎日の学習・学校生活を大切にすることができ、進路希望・学習意欲などを充実したものにさせる。	B			
学校保健 学校安全 教育 特別支援 (保健部)	生徒を理解し、様々な角度から支援の充実を図る。環境問題と環境美化に対する意識の向上を図り、自ら判断し行動できるように教職員と共に考え取り組む。	多様な課題や不安を抱える生徒・保護者に対し、スクールカウンセラーやまなび・生活アドバイザーの支援と協力を得て、より良い支援方法を構築し実践する。	C	○様々な課題を抱える生徒への対応についてはSCとともに対応はできていたが、SSWとの協力関係は不十分であった。 ○ゴミの削減については、コロナ禍であったため減少したが削減の為の取り組みが不十分であった。 ○I期掃除分担の状況を踏まえ、大掃除や美化週間に向けた目標を新たに定め環境整備を行う。	
		環境問題に対する意識向上を図るため、ゴミの分別や排出量の削減を進める。目標として10%削減を目指す。	B		
		施設の老朽化に伴い、安全確認や汚れの早期改善を進めるため、普段の清掃に加え重点目標を定めた清掃活動を定期的に計画し実施する。	C		
読書指導 視聴覚教育 (図書視聴覚 担当)	生徒の読書離れ・活字離れの現状の改善に努め、利用者の視点に立った図書運営を行う。	図書館だよりと図書委員会だよりを定期的(あわせて年9回)に発行し、教室掲示またはClassiにより、生徒におすすぬ書などの情報を提示する。	B	休校期間があったが、Classiを活用して生徒への情報提供ができた。委員会だよりは、今後、読書週間や一斉読書に併せて発行していく予定である。 本年度はコロナウイルス感染拡大防止の観点から、図書館でのクラス単位での授業の実施が困難である。一部、講座での活用等の連携状況を取りまとめ、今後のコロナ禍での活用方法を検討する。 進路指導部全体として動くことは難しかった。研修会は動画作成について実施することができた。教室に設置されるプロジェクトについて操作マニュアルを作成する予定である。	
		図書館と授業との連携状況を紹介して、教科での図書資料活用を促進する。	C		
		進路指導部全体で校内ICT活用について考え、校内ICTの操作マニュアルを作成して、それについての研修会を少なくとも1回は実施する。	C		
教育環境 整備 (事務部)	施設・設備の維持・安全管理をはかる。特色ある教育活動や広報活動等の実施のための学校予算の効果的執行を行う。	「安心・安全」を最優先に週に1回校内巡視し、危険箇所の早期発見・対応を行う。	B	校内で対応できる危険箇所については早急に対応できている。空調設備設置やプロジェクト設置工事など通常でない工事に追われた面もあった。今後危険箇所について順次修繕を行っていく。 新型コロナウイルス対策に追われたとはいえ、ヒアリングは昨年度より遅くなり、配分はまだできていない。早急に配分を行い効果的な執行を行う。 冷暖房については新型コロナウイルス対策のため換気しながらの運用になっているため昨年度までとの比較は難しい。不要電気の消灯等節電を呼びかける。	
		各分掌・教科のヒアリングを実施し効果的な配分と執行を行う。	D		
		節電等と呼びかけ、光熱水費の削減に取り組む。	C		
第1学年部	一人一人が洛東高校の代表であるという自覚を持たせ、ルールを守って行動させる。また、進路実現の意識を持たせながら学習習慣の定着を図る。	時間・身だしなみ・携帯電話のルールについて日常的な声かけを大切に、関係分掌や保護者と連携して段階的に指導する。	B	2学期に学年集会を開催し、ルールを守ることの大切さや、集団の中での行動について指導し、できていない生徒は担任団で個別指導を行った。その結果、学年全体としては、良い方向に向かっているが、更に改善していくために他分掌と連携して指導をしていく予定である。 休校及び時差登校中のSHRIにおいて、様々な課題に取り組ませることができた。 学校祭において、委員や係が主体的に活動することができた。部活動については休校の影響等で加入率は低くなったが、入部した生徒は意欲的に活動している。	
		SHR等を利用して、読んだり、考えたりする時間をつくり、考える力をつけさせる。	B		
		学校行事・清掃活動・部活動等への主体的な参加を促す。	C		
第2学年部	希望進路を早期に決定させ、希望進路ごとの進路実現に向けた取り組みを今年度中に開始して、必要とされる能力を向上させる。	・年度当初の学年オリエンテーションにおいて、進路実現に向けた今後2年間および今年度のスケジュールを生徒に周知し、生徒に進路実現に向けた見通しを持たせる。 ・夏季三者面談までのLHRを活用し、進路希望調査および進路別のガイダンスを進路指導部と連携して行う。 ・夏季休業明けに進路希望調査を実施し、この時点で未定者が出ないように指導する。このために、夏季三者面談において保護者に進路選択および選抜後の取り組みについて十分に周知する。 ・大学(四大、短大)進学希望者について、学年部として補習への出席状況の把握を行い、大学入試(一般選抜)に向けた学習習慣の定着を図る。 ・大学進学希望者以外の生徒について、進路指導部と連携してSPI対策講座等を実施し、学習への意識付けを行う。 ・当たり前のこと(時間を守る、身だしなみを整える、あいさつをする)を当たり前に行うように、学年部として一致した指導を行う。 ・進路実現に向け、身だしなみやあいさつの仕方等について、生徒指導部と連携して外部機関を活用した講演を実施する。	C	・年度当初の学年オリエンテーションや進路指導部と連携した進路別ガイダンスを通して、生徒に進路実現に向けた見通しを持たせることができた。 ・夏季三者面談を通して保護者に進路選択および選抜後の取り組みについて周知することができた。 ・進路指導部と連携し、大学進学希望者に対する新たな進学補習を開始した。前向きに取り組む生徒もいる一方で、基礎学力の不足からあきらめてしまったり早期に離脱した生徒も多数いる。入学当初から、基礎学力、基礎的な学習習慣を定着させるための方策が必要であると考えられる。 ・学校再開後、早期に外部講師による身だしなみに関する講演会を実施したが効果はあまりなく、昨年度に比べて身だしなみがかなり乱れている。繰り返し声かけはしているが、学年会での呼びかけやカードを利用した指導も必要であると考えられ、今後実施していく予定である。 ・昨年度に比べて遅刻者が激増している。今後、学校全体で行われる遅刻指導をいかにしながら、研修旅行や進路実現を見据えて、学年として厳しく指導していく。	
		生徒一人一人の適性や希望に合わせた進路指導を徹底し、進路決定させる。漢字検定を全員受験させる事も含め、基礎学力の充実、応用力の養成に尽力させる。	B		
		学校におけるあらゆる教育活動を通じ、学校行事やホームルーム、部活動を通じて、自主性・協調性を養うも連携し、卒業後も持続可能な目標を持たせる。	B		
第3学年部	生徒全員が納得のいく進路実現を達成させる。これまで積み重ねてきた指導を元、他分掌とも連携し、卒業後も持続可能な目標を持たせる。	身だしなみを整えることの重要さを意識させる。進路指導部や生徒指導部と連携しながら、学年全員に定着させる。	C	準備期間の使い方や心構えに不十分な点が見られた。応援や鑑賞のマナーも良いとは言えないもの盛り上がることには成果があった。文化祭と体育祭を再編し学校祭として生徒主体で取り組むことが出来た。山科駅周辺でゴミ拾いの清掃ボランティアを実施することができた。 身だしなみを整える意識が高まっていない。他分掌との連携を更に強固なものとし、全体への注意喚起に加え、個人への指導を徹底していく。	
評価の基準		A:十分達成できている。(目標以上の成果が得られている。) B:ほぼ達成できている。(ほぼ目標通りの成果が得られている。) C:達成できているとはいえない。(成果はあったが、目標は達成できていない。) D:ほとんど達成できていない。(ほとんど成果が得られていない。)			
学校関係 者評価 委員会による 評価	次年度に 向けた改善 の方向性				